

## Ⅶ. 名古屋大学と一体化した研究開発

### 第1章

## 高大接続研究センターの開設と取り組み

高大接続研究センター特任講師 阿部 英之助

### (1) 高大接続研究センターの開設の経緯と目的

平成27年5月に名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター（Center For Higher Education Transitions CHET）が附属中・高等学校内の一室に開設しました。この高大接続研究センターの前身は、平成11年に設立した附属中等教育研究センターであり、平成27年5月に中等教育研究センターを発展的に改組し、新たに高大接続研究センターとして再スタートしました。

本センターを開設した背景には、昨今の後期中等教育及び高等教育に対する大きな改革の流れがあります。平成26年12月に中央教育審議が答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」を発表しました。これに基づき、平成27年1月に文部科学省が「高大接続改革実行プラン」、9月には高大接続システム改革会議が「中間まとめ」、そして平成28年3月に「最終報告」を公表しました。そこでは、新たに高校段階での「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と、現在のセンター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を導入することなどが発表されました。この改革により、高校教育や大学入試、そして高校と大学のあり方が変わろうとしています。

そのような状況の中で、高大接続研究センターは、①

高大接続に関する研究、②高大接続入試に関する研究、③中等教育に関する研究、④新たな大学入学者選抜の開発、⑤高大接続に関する事業の実施、以上5点について、専門的に調査研究するセンターです。

### (2) 附属中・高等学校と一体化した取り組み

#### 1) 中津川プロジェクト

「中津川プロジェクト」は、附属中・高校生を対象にして夏休みに名古屋大学の「中津川研修センター」を利用して、2泊3日の短期集中型で行われています。企画の狙いは「既存の学問領域や、高校の教科の枠組みにとらわれることなく、名古屋大学での教育・研究につながり、広い意味でその基盤になるものを実施し、附属中・高等学校生の視野を広げて学習意欲を高め、名古屋大学の求める学生像と教育内容への理解を深めること」です。

〈平成27年度 中津川プロジェクト〉

学習テーマ	「よむ かく みる ふれる ときはなつ」
目的	・教科を超えて学問に触れる ・社会や大学の学問と連携する
日時	平成27年8月11日（火）～8月13日（木）
場所	東海地区国立大学共同 「中津川研修センター」

〈企画内容〉

#### 1. 「みる」「ときはなつ」 〈自然に学ぶ、五感で学ぶ、体験して学ぶ〉

地球では動物と植物と鉱物（鉱物の集合体が石で風化して土壌となる）がお互いに密接に関係して生態系を作っています。自然の理解には体験学習が一番なので、中津川プロジェクトでは自然に親しむ機会を出来るだけ多く作って、本物の動植物・鉱物・景色をよく見たいと思います。五感の全てを使って自然を観察していると、自然の仕組みや長い地球の歴史の一端が少し分かるかもしれません。

#### 2. 「みる」「ふれる」「かく」 〈糖尿病について考える〉

みなさん、糖尿病って聞いたことありますね。でも、どんな病気か知っていますか？日本人の5人に1人が罹患している、今や国民病です。今回はとある糖尿病患者さんの治療と生活指導について、みんなで一緒に考えてみましょう。みんなで、より効果的なアプローチをしてみましょう。

3. 「みる」「ふれる」「ときはなつ」 〈需要・供給曲線を通して見る経済－東京オリンピック2020の経済効果を考える〉

需要・供給曲線の図を知っている人は多いと思いますが、この図は想像以上に奥が深いです。この図を理解すると色々なことが見えてきますが今回は東京オリンピック2020を例題にして、その経済効果について考えてみます。さて、経済効果とは何でしょうか。1つは企業の利潤(儲け)に相当する部分があります。これは供給曲線と関係があります。経済効果のもうひとつの側面は個人の満足です。それを消費者がどれだけ欲しいと思うか、ということです。この部分は需要曲線と関係します。さて、皆さんは東京オリンピック2020に何を期待しますか？東京オリンピック2020の経済効果の測定を試み、オリンピックを開催することの意義について考えてみることにしましょう。1964年に開催された東京オリンピックとの比較もしてみます。

4. 「よむ」「かく」「ときはなつ」 〈「だまし絵」を読み解く〉

講義① 「だまし絵」とは何か

② いろいろなだまし絵

③ だまし絵とまちがえてしまうもの

トリックアート、心理学的錯視、アナモルフォーズ

討論 ダリ、マグリット、ヘイスブレヒツ、エッシャーなどの作品を生徒が選んで気づいた点、面白いところ、画家が意図しているところなどについて考える

2) 「学びの杜・学術コース」

「学びの杜・学術コース」とは、「名古屋大学の知を高校生に」というテーマの下で、毎年6月～12月に開講しています。

この「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心として、学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生を対象に、それぞれの学問領域における知の

探究の成果や方法、スタイルなどについて、分かりやすく解説し、知の探究の厳しさと愉しみを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」として行われています。

特に大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生が各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のビジョンを広げたり、キャリア・デザインへと発展したりできるように企画されています。

また、附属高等学校との関わりでは、「物理学探究講座」「生命科学探究講座」「地球市民学探究講座」の3講座が、スーパーサイエンスハイスクール授業として一般公開されており、附属高校生が受講することで単位認定されています。

名古屋大学の知を高校生に

2015年度 豊かな人間形成のための

2015

対象：高校生 / 受講無料

**学びの杜・学術コース**

【学問の世界を知り、創造的な学びの力を育む】

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心として、学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生のみならず、多岐にわたる、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、分かりやすく解説し、知の探究の厳しさと愉しみを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」です。大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生が各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のビジョンを広げたり、キャリア・デザインへと発展したりできるように企画されています。ぜひ、ご参加ください。

**学びの杜・学術コースの特徴**

1. 大学における学びの探究を体験することにより、自分の進路や興味・関心について考えをもち、学びの力を育むことができます。
2. 学問世界と社会とのつながりを通して、大学での学びの意義となる多岐にわたる学問領域やキャリア・デザインを学ぶことができます。
3. 最新鋭で最先端の学問や最先端の学問と社会とのつながりを通して、幅広い学びのネットワークをつくらることができます。
4. 事前に決めておけるキャリアを基盤として進化する第一歩を踏み出すことができます。

主催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科 高大接続研究センター  
<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

受講申し込みについて

申し込みは、①発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、②発着点講座(物理学探究講座)はコース名、③発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、④発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、⑤発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、⑥発着点講座(物理学探究講座)はコース名、⑦発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、⑧発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、⑨発着点講座(物理学探究講座)はコース名、⑩発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、⑪発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、⑫発着点講座(物理学探究講座)はコース名、⑬発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、⑭発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、⑮発着点講座(物理学探究講座)はコース名、⑯発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、⑰発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、⑱発着点講座(物理学探究講座)はコース名、⑲発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、⑳発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㉑発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㉒発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㉓発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㉔発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㉕発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㉖発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㉗発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㉘発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㉙発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㉚発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㉛発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㉜発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㉝発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㉞発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㉟発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㊱発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㊲発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㊳発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㊴発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㊵発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㊶発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㊷発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㊸発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㊹発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㊺発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㊻発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㊼発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、㊽発着点講座(物理学探究講座)はコース名、㊾発着点講座(生命科学探究講座)はコース名、㊿発着点講座(地球市民学探究講座)はコース名、

申し込み・問い合わせ先 〒464-8601 名古屋市中区区 栄 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 高大接続研究センター  
 cses@educa.nagoya-u.ac.jp

平成27年度の設立講座

講座名称	
物理学探究講座	生命科学探究講座
地球市民学探究講座	地域包括ケア探究講座
インフラ工学探究講座	人文学探究講座
コンピューター活用探究講座	人間発達科学探究講座

3) 高大接続関連シンポジウムへの参加

高大接続研究センターでは、附属中・高等学校の教員と一緒に高大接続に関する外部のシンポジウムなどに共同参加をしています。高大接続の最新の動きや他大学の動向など共同で情報収集を行っています。昨年度は、6月「京都大学・大阪大学・関西学院大学・高大接続フォーラム」や9月には、日本テスト学会が開催した公開シンポジウム・第1部「テスト学からみた高大接続改革」・第2部 座談会「校長、高大接続改革を語る」に参加し、

最新の政策動向や他大学・他校の高大接続の事例を聞くことが出来ました。

### (3) 高大接続研究センターの取り組み

平成27年12月に、「高大を接続する－米国と日本の高大接続の現在と未来－」と題した公開講演会を開催しました。この公開講演会には北海道から九州までの大学教職員、県内外の高校教職員、附属中・高等学校保護者、塾関係者、マスコミ関係者等、約120名の参加がありました。

(1) で述べた高大接続に関する状況の中で、高校と大学の「学びの接続」のあり方を、国際的な観点から検討する為に、この公開講演会を開催しました。

大谷尚・高大接続研究センター長による講演『高大非接続の現状－序にかえて－』に引き続き「米国における高大接続の現状と課題」として、アンドリュー・エフラット元マサチューセッツ大学副総長による講演『米国の大学の立場から』、ノーラ・スティーブ元マサチューセッツ大学Senior Lecturerによる講演『米国の中等教育・特別支援教育の立場から』が行われました。そして『大学入試の終焉』の著者でもある佐々木隆生北星学園大学教授（北海道大学名誉教授）による講演『日本の高大接続の現状と将来』が行われました。各講演終了後には、会場から多くの質問が出されるなど、高大接続について



の関心の高さが示されました。最後に、松田武雄教育発達科学研究科教授・前研究科長（現附属中・高等学校長）の閉会の辞により、充実した講演会が閉じられました。

また、平成28年3月には公開研究会〈高大接続システム改革会議「最終報告」を受けて～高大接続システム改革会議の最終報告と高校教育現場からみた高大接続問題～〉を開催しました。この公開研究会では、開催の直前に公表された高大接続システム改革会議の「最終報告」について佐々木隆生先生に解説していただきました。続いて、高校の現職教員から入試や高大接続に対する受け止め方など話していただきました。会場には、大学職員・高校関係者・マスコミ関係者など約50名の参加があり、活発な意見交換が行われました。

### (4) 高大接続研究センターの今後の取り組み

高大接続研究センターは、今後もこの高大接続について調査研究を進めていく予定です。具体的には、「グローバル高大接続入試」のあり方や「学びの杜・学術コース」や「基礎セミナー」の受講によるAP化（Advanced Placement Program）の可能性など附属中・高等学校との連携を深めながら、進めていきたいと考えています。また、高大接続に関する公開講演会やシンポジウム、レクチャーシリーズなども企画し広く情報発信も行う予定です。

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター 公開講演会

## 高大を接続する

－米国と日本の高大接続の現在と未来－

2015年12月5日(土) 13:00-17:00(開場は12:40)

会場：名古屋大学 ESホール(名古屋大学東山キャンパス内、ES総合棟1F)

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センターは、次のように公開講演会を開催します。今回は、小論文などが求められるアメリカの大学入試の現状や取り組みについて、アメリカからのお二人のゲストに、それぞれ大学から中等教育・特別支援教育の立場からお話しします。

また、日本の高大接続の現状と課題について、発達科学者・大学改革推進員・塾長・特別支援教育の立場から、大学入試の現状と課題、大学入試の改革～高大接続システムによる変化～(2012)の著者でもある、この問題に詳しく自らの経験や実践からお話しをいただきます。

高等学校関係者、大学関係者、その他多様な方々を対象に企画いたしますので、ぜひご参加下さいませようとお願いたします。

**開会のことば**  
開会者：松田武雄(名古屋大学教育発達科学研究科教授、前研究科長)

**副総長挨拶**  
小谷尚(名古屋大学副総長) 入試・成績管理・学修支援・調査評価担当

**高大接続の現状－序にかえて－**  
大谷尚(名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター長)

**米国における高大接続の現状と課題の紹介**  
「米国の大学の立場から」  
アンドリュー・エフラット(元マサチューセッツ大学副総長)

**「米国の中等教育・特別支援教育の立場から」**  
ノーラ・スティーブ(元マサチューセッツ大学Senior Lecturer)

**「日本の高大接続の現状と将来」**  
佐々木隆生(北星学園大学教授、北海道大学名誉教授)

**閉会のことば**  
松田武雄(名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授、前研究科長)

お問い合わせ先 名古屋大学 ESホール 1F 111号室 chel@educ.nagoya-u.ac.jp まで ①ご来場、②電話、③お名前・お住所の上、メールでお申し込みください。申し込みの受付は終了いたしますので、ご希望の方はメールでお申し込みください。必ずこのホームページから検索できるようにしてください。